様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　４ 日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ０２６０１

研究課題名（和文）１８世紀フランスの描写詩にみる感性論、自然描写、道徳論についての総合的研究

研究課題名（英文）Comprehensive research of the descriptive poetry in 18th-century France-sensibility, description of nature and moral

研究代表者
井上　櫻子（INOUE, Sakurako）

慶應義塾大学・文学部（三田）・教授

研究者番号：１０４２２９０８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究課題は、新型コロナウィルス感染拡大により、3年度分延長をすることとなった。しかし、期間延長を経て、特にサン＝ランベールの道徳論については彼の執筆する『百科全書』の項目の典拠に関して文献調査を徹底し、研究の精度を上げることができた。そして、その成果を本務校の刊行する紀要への投稿論文として発表するのみならず、コロナ前から行ってきたフランスのセミナーでの研究発表を、海外渡航が難しい間もセミナーへのオンライン参加の形で実現することができた。また、ルソーと描写詩との関係性について、自然描写と感性論に注目しながら考察した論考を、一般読者向けの単行本に寄稿することもできた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　サン＝ランベールが『百科全書』に寄稿した道徳関連項目についての研究は、フランスの『百科全書』電子批評版プロジェクトチームのセミナーで口頭発表したのみならず、査読を経て同チームが運営するサイトに公開することにも成功した。ここから研究代表者の研究成果が国際的に高く評価されていることが確認される。また、ルソーと描写詩の関連についての論考を一般読者向けの単行本に発表したことにより、研究成果を広く国民に発信することにも成功したと言える。

研究成果の概要（英文）：Due to the pandemic of coronavirus, we had to extend this research project for more three years. However, through this period, we were able to improve the research accuracy by conducting a document investigation on the sources of the articles in the "Encyclopedie" written by Saint-Lambert, especially on his moral theory. The results were not only published as articles for the university bulletins, but we also realized the presentation of our research at a seminar in France, as we had been doing before Corona, through online participation in the seminar while it was difficult for us to travel abroad. We were also able to contribute an essay on the relationship between Rousseau and descriptive poetry, focusing on the description of nature and the theory of sensibility, to a monograph for general readers.

研究分野：フランス文学

キーワード：フランス文学　フランス思想

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

(1)研究代表者は、博士論文執筆時より、18 世紀に特有のジャンル描写詩というジャンルを確立した詩人ジャン＝フランソワ・ド・サン＝ランベール（1716-1803）の代表作『四季』（初版 1769）に注目し、2014 年には当該著作の批評校訂版をフランスで刊行した。その成果を踏まえ、2015 年には、オランダ、ロッテルダムで開催された国際 18 世紀学会でサン＝ランベールに関するセッションを企画し、サン＝ランベールが『百科全書』に寄稿した項目「奢侈」と『四季』の関係について口頭発表を行なった（その成果は 2017 年、「サン＝ランベール、項目『奢侈』から『四季』へ」と題する仏語の論文として、『フランス文学史雑誌』第 117-3 号に発表されている）。これをきっかけに、研究代表者は次第にサン＝ランベールが『百科全書』に寄稿した項目に関心を持つようになった。

(2)フランスでは、2010 年代初頭より、ディドロと『百科全書』の専門家であるマリ・レカ＝ツィオミス氏（パリ・ナンテール大学名誉教授）を中心に『百科全書』電子批評版（以下 ENCCRE）プロジェクトが進んでいた。これは、フランス学士院所蔵の『百科全書』初版を底本とし、この大事典所収の項目におもに典拠に関する注釈を付して、ウェブ上に公開するというものである。研究代表者は、本務校より 1 年間の研究休暇を得て、2016 年 3 月から 2017 年 3 月にかけてパリ＝ソルボンヌ大学（現ソルボンヌ大学）訪問研究員としてフランスに滞在した。その際、ENCCRE プロジェクトチームが主宰するセミナーに定期的に参加し、特にサン＝ランベールの執筆項目について典拠研究を進め、その成果を ENCCRE サイトに公開するように依頼を受けた。貴族の出身で、国王軍にも従軍したサン＝ランベールは、禁書処分に処せられていた『百科全書』に寄稿するにあたり、匿名を貫いた。そのため、彼が執筆した項目の一部は、『百科全書』の編集者ディドロに帰せられることもあった。このような項目群の中から、研究代表者はまず、項目「メランコリー」に注目し、ここに展開される感受性についての考察と『四季』の人間論を比較しつつ、この項目がサン＝ランベールによるものであることを典拠研究によって明らかにし、ENCCRE プロジェクトチームのメンバーから高い評価を得た（その成果は、『「百科全書」の時空　典拠・生成・転位』（逸見龍生、小関武史編、法政大学出版局、2018 年）に寄稿した日本語の論文、および ENCCRE サイト上の仏語での注釈の形で公開されている）。ここから、研究代表者はサン＝ランベールが『百科全書』に寄稿した道徳関連の項目について典拠研究を進めることが、国際的な 18 世紀研究の現状に鑑みて、意義のあるものだと考えた。

(3)2016 年 3 月から 2017 年 3 月にかけてのフランス滞在中は、上記 ENCCRE セミナー以外にも、パリ＝ソルボンヌ大学やソルボンヌ・ヌーヴェル大学で開催されたルソー・セミナーで、ジャン＝ジャック・ルソーと描写詩との関連について講演を行なったり、スイス、バーゼル大学で開かれたセミナー「ドリール再構築」で、サン＝ランベールの人間論や『四季』の生成プロセスについての発表を行なったりした。そしてフランスやスイスの 18 世紀フランス文学を専門とする研究者と意見交換する中で、描写詩に見られる感性論や自然描写についての考察を深めることで、ルソーのように既に多くの研究がなされている作家・思想家の作品についても新たな視点から読み直す可能性があるのではないかと考えるに至った。本研究課題は、以上のような経緯により着想されたものである。

２．研究の目的

(1)本研究課題は、これまで研究代表者がサン＝ランベールの『四季』を中心とする描写詩について進めてきた研究成果を踏まえ、それを深化させることを目的とする。研究代表者は、『四季』批評校訂版を準備するにあたり、サン＝ランベールの人間論をおもにディドロの思想との関連から検討してきた。その成果をサン＝ランベールが『百科全書』に寄稿した道徳関連項目の考察に応用することで、18 世紀研究においてこれまであまり光を当てられることのなかった描写詩を再読する必要性を浮き彫りにするとともに、『百科全書』の無記名項目の制作プロセスの解明にもつなげたいと考えたのである。

(2)同時に、研究代表者は描写詩と同時代に人気を博した文学作品における自然描写とを比較しながら、文学的観点から描写詩に関する研究を進めることの重要性を強調することも目指した。具体的には、フランス文学に自然描写の美学を持ち込んだのはルソーであるとの定説に疑義を挟むべく、ルソーが自然描写の美学を確立するにあたり、描写詩を手がけた詩人たちから影響を受けた可能性について検討しようと考えた。

(3)描写詩をはじめ、自然描写の折り込まれた文学作品には、外界からの刺激が感受性に与える影響についての考察が認められる。そうした考察に着目しながら、ロマン主義的感性の誕生という問題に新たな視点から回答を提示することも目標に据えた。

３．研究の方法

(1) サン＝ランベールの道徳論解明にあたっては、年度ごとに集中的に考察する『百科全書』の項目を一つ決め、その典拠について調査するという方法をとった。初年度の 2017 年度は、サン＝ランベールが『百科全書』に寄稿した項目「利益」の典拠研究から着手した。そして、この項

目が、エルヴェシウスとその代表作『精神論』(1758) の弁護、さらには禁書処分とされた『百科全書』そのものの弁護を目的としたものであることを明らかにした。そして、これまで無記名であるとの理由からあまり注目を集めてこなかった項目の典拠研究が、『百科全書』生成過程の複雑な内実の解明につながりうることを示そうとした。次に 2018 年度は、サン＝ランベールの執筆項目「作法」の典拠研究を進め、この項目がモンテスキューの『法の精神』(1748) に対する反論となっていることを解き明かした。さらに 2019 年度は、2017 年度、2018 年度に行った考察を踏まえて、『百科全書』項目「名誉」に注目し、一見したところモンテスキューの政治思想に対する反論に見えるこの項目が、エルヴェシウスの思想の弁護する役割を担っていることを明らかにした。このような典拠研究を進めるにあたって、2017 年度、2018 年度は夏季休暇と春季休暇、2019 年度は夏季休暇を利用して、フランスに渡航し、フランス国立図書館および学士院図書館で資料収集を行った。
(2)2020 年 3 月以降は、新型コロナウィルスの世界的感染拡大の影響により、フランスでの資料調査が難しくなったが、これまで行ってきた考察を発展させ、2021 年度には項目「オネット」に見られるサン＝ランベールの政治道徳思想について検討し、近代的な法の概念が確立されていない時代にあって、彼が道徳思想と政治思想を連結しつつ、いかに独自の思想を展開しようとしているかを解明しようとした。また、2022 年度はサン＝ランベールの執筆項目「称賛」とディドロの執筆項目「称賛する」を比較検討しつつ、この二人の思想家の道徳思想について比較検討を行った。これは、項目「天才」をはじめ、サン＝ランベールの執筆項目でありながら、長らくディドロに帰せられていた『百科全書』の一部の項目を再検討する準備作業であり、今後このような方向性で考察を深めていきたい。
(3)描写詩と同時代の文学作品にみられる自然描写との比較については、特にルソーの『新エロイーズ』(1761) 再読の可能性という問題と関連づけて進めた。具体的には、ルソーがこの書簡体小説の構想を練っていた 1750 年代半ばに、シャルル＝ピエール・コラルドー (1732-1776) の韻文詩『エロイーズからアベラールへの手紙』(1758) が大変な人気を博したことに注目し、この作品からルソーが影響を受けた可能性について検討した。コラルドーは、アレキサンダー・ポウプの自由な翻訳である本作以外にも、描写詩の作者として名を馳せたからである。そしてルソーとコラルドーの作品に見られる自然描写と感受性に関する記述について比較検討した。

４．研究成果
(1) 2017 年度から 2019 年度にかけては、サン＝ランベールが『百科全書』に寄稿した道徳関連項目（「利益」、「作法」、「名誉」についての考察結果は、まず、『慶應義塾大学日吉紀要　フランス語フランス文学』への投稿論文の形でまとめた（第 65 号、第 67 号、第 70 号に掲載)。そして、その内容をさらに深化させて、2018 年 3 月および 2019 年 3 月にはフランスに渡航し、ENCCRE プロジェクトチームが主宰するセミナーで口頭発表を行った。とりわけ、ENCCRE セミナーでは、発表後にフランスの『百科全書』の専門家との質疑応答を展開する中で、研究代表者の研究方針の妥当性を確認するとともに、サン＝ランベールと他の百科全書派の思想家との関連を調査する上で貴重な助言を得ることができた。新型コロナウィルスが猛威を振るっていた 2020 年 12 月には、オンラインで ENCCRE セミナーに参加し、口頭発表を行ったことにより、海外で開催される学術会議への新たな参加方法の可能性を確認できたことは貴重であった。また、項目「利益」についての典拠研究の成果は、ENCCRE サイト上で公開され、広く世界に発信されている。
(2)コロナ禍中は、当初予定していたようにフランスで資料収集を行うことができなかったが、その間も『百科全書』の項目「オネット」、「称賛」、「称賛する」に注目しながらサン＝ランベールの政治道徳思想について検討し、その成果を本務校の刊行する紀要『藝文研究』(第 121-2 号) および『慶應義塾大学日吉紀要　フランス語フランス文学』(第 75 号) に発表した。
(3)自然描写と感受性についての記述に注目しながら描写詩とルソーとの関連性について検討した成果は、2023 年 3 月刊の単行本『感受性とジェンダー　＜共感＞の文化と近現代ヨーロッパ』（小川公代、吉野由利編、水声社）への寄稿論文の形で、広く一般読者に向けて発信した。
(4)本研究課題遂行中は、当初予定していた以外にも口頭発表の機会に恵まれた。まず、2016 年 3 月から 1 年間フランス、パリに滞在し、ENCCRE セミナーに参加した報告として、2017 年 4 月には、慶應義塾大学三田キャンパスにて「ENCCRE における『百科全書』項目注解要項の紹介、およびマリ・レカ＝ツィオミスによる項目『悦楽』注解」（主宰：『百科全書』・啓蒙研究会）と題する講演を行った。次に、2019 年 9 月には、慶應義塾大学三田キャンパスにて開催されたシンポジウム「アンシャン＝レジーム下の『家族』」（主宰：鷲見洋一、井上櫻子）において、「音楽における夫婦愛」と題する口頭発表を行った（仏語)。また、2019 年 10 月には、東京の日仏会館にて開催されたシンポジウム「『著名性』の誕生-18 世紀、19 世紀における文学と著名性-」（主宰：アントワーヌ・リルティ招聘グループ）にて、「見ることと見られること：『夢想』における孤独と著名性」と題する仏語による口頭発表を行った（その内容は『藝文研究』第 119-2 号に掲載されている)。
(5)さらに、研究代表者は依頼を受けて、ルソーの『孤独な散歩者の夢想』、アベ・プレヴォーの『マノン・レスコー』およびフランス文学における「ファム・ファタル」のテーマについての解説を学部生向けの単行本『フランス文学の楽しみかた』(永井敦子、畠山達、黒岩卓編、ミネルヴァ書房、2021 年）に寄稿した。
(6) コロナ禍前には、本研究費を用いてフランスの 18 世紀研究者を慶應塾大学三田キャンパス

に招聘し、積極的に学術交流も行った。まず 2017 年 10 月から 11 月にかけては、ヴォルテールと 18 世紀の韻文の専門家であるシルヴァン・ムナン氏（ソルボンヌ大学名誉教授）と地下文書の専門家であるジュヌヴィエーヴ・アルティガス＝ムナン氏（ギュスターヴ・エッフェル大学名誉教授）を迎えて講演会（「ヴォルテールとルソーの相互関係」および「18 世紀初頭のフランスの小説におけるパリ」）を開催した。次に、2018 年 6 月には、ラ・フォンテーヌを中心とする 17 世紀フランス詩の専門家アラン・ジェヌティオ氏（ロレーヌ大学教授）を招聘し、「古典主義の現代性」と題する講演会を行った。さらに、2019 年 10 月には、歴史学者アントワーヌ・リルティ氏（社会科学高等研究院教授）を招いて、「ルソーと著名性　不幸の著名性：ルソーと公衆・読者」と題する講演会を催した。なお、これらの講演の研究代表者による翻訳は、いずれも『慶應義塾大学日吉紀要　フランス語フランス文学』に収録されている（第 66 号、第 69 号、第 70 号を参照のこと）。このような学術交流を通して構築したフランスの研究者とのネットワークは、今後の研究にも役立てていきたい。
(7) 本研究課題遂行中、研究代表者は『フランス文学史雑誌』を刊行するフランス文学史学会の日本通信会員に任命され、2018 年 11 月には、同学会総会にて、日本におけるフランス文学研究の現状について口頭で発表した。コロナ禍中は参加を見送らざるを得なかったが、今後は積極的に同学会大会に参加し、18 世紀研究のみならず、広くフランス文学の現状に目を向けていきたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 井上櫻子	４．巻 75
２．論文標題 サン＝ランベールとディドロの無記名項目―『百科全書』項目「称賛＜LOUANGE ＞」、「称賛す＜LOUER ＞」を中心に―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 慶應義塾大学日吉紀要　フランス語フランス文学	６．最初と最後の頁 33-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 井上　櫻子	４．巻 121-2
２．論文標題 『百科全書』項目<HONNETE>にみるサン＝ランベールの政治道徳思想	５．発行年 2021年
３．雑誌名 藝文研究	６．最初と最後の頁 47-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 井上　櫻子	４．巻 119-2
２．論文標題 見ることと見られることー『夢想』における孤独と著名性ー	５．発行年 2020年
３．雑誌名 藝文研究	６．最初と最後の頁 159-167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 井上　櫻子	４．巻 70
２．論文標題 サン＝ランベール、モンテスキュー、そしてエルヴェシウスー『百科全書』の項目「名誉《HONNEUR》」を中心にー	５．発行年 2020年
３．雑誌名 慶應義塾大学日吉紀要　フランス語フランス文学	６．最初と最後の頁 95-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上　櫻子	4．巻 67
2．論文標題 サン＝ランベールと『百科全書』ー項目「作法<MANIERE>」をめぐってー	5．発行年 2018年
3．雑誌名 慶應義塾大学日吉紀要　フランス語フランス文学	6．最初と最後の頁 19-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 INOUE Sakurako	4．巻 117/3
2．論文標題 Saint-Lambert, de l'article < Luxe > aux Saisons	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Revue d'Histoire litteraire de la France	6．最初と最後の頁 521-527
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上　櫻子	4．巻 65
2．論文標題 サン＝ランベールの道徳思想ー『百科全書』項目<Interet (Morale)>」の典拠研究ー	5．発行年 2017年
3．雑誌名 慶應義塾大学日吉紀要　フランス語フランス文学	6．最初と最後の頁 55-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　3件／うち国際学会　3件）

1．発表者名 井上　櫻子
2．発表標題 article < HONNEUR, s.m. (Morale) >
3．学会等名 Seminaire de l'ENCCRE（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2020年

１．発表者名 INOUE Sakurako
２．発表標題 L'amour conjugal dans la musique
３．学会等名 La < Famille > sous l'Ancien Regime
４．発表年 2019年

１．発表者名 INOUE Sakurako
２．発表標題 Voir et etre vu : la solitude et la celebrite dans Les Reveries
３．学会等名 「著名性」の誕生ー18世紀、19世紀における文学と著名性ー
４．発表年 2019年

１．発表者名 井上　櫻子
２．発表標題 Sur l'Article < Maniere >
３．学会等名 Seminaire de l'ENCCRE（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 井上　櫻子
２．発表標題 ENCCREにおける『百科全書』項目注解要項の紹介、およびマリ・レカ＝ツィオミスによる項目「悦楽」注解
３．学会等名 『百科全書』・啓蒙研究会
４．発表年 2017年

１．発表者名 INOUE Sakurako
２．発表標題 Article < Interet (Morale)>
３．学会等名 Seminaire de l'Edition numerique collaborative et critique de l'Encyclopedie（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計2件

１．著者名 井上櫻子　他	４．発行年 2023年
２．出版社 水声社	５．総ページ数 308
３．書名 感受性とジェンダー　＜共感＞の文化と近現代ヨーロッパ	

１．著者名 井上櫻子　他	４．発行年 2018年
２．出版社 法政大学出版局	５．総ページ数 406
３．書名 百科全書の時空 典拠・生成・転位	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ENCCRE http://enccre.academie-sciences.fr/encyclopedie/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計3件

国際研究集会 La modernite du classicisme	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Rousseau et la celebrite　La celebrite des malheurs : Rousseau et son public	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 シルヴァン・ムナン氏、ジュヌヴィエーヴ・アルティガス＝ムナン氏公開講演会	開催年 2017年～2017年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関